



鶴見台飛来数調査&マナー啓発事業の結果報告会に参加して

昨年度、おもに教育委員会主催のタンチョウ講座を受講された皆さんが、鶴見台で飛来数調査とマナー啓発活動を行っていたことを知っていましたか？ 12月から3月までの間の24日間、2時間おきの飛来数カウントと標識タンチョウ（足環個体）の記録と、鶴見台の来訪者からの質問や意見を記録しました。私自身は、この活動には参加出来ませんでしたが、日ごろから鶴見台の様子はとても気になっていたのです、8月5日に行なわれた結果報告会に行ってきました。

まず、飛来数調査と標識タンチョウ出現記録について報告があり、参加者全員で調査結果を共有しました。

その後、来訪者からあった質問や意見について、報告がありました。多くの観光客が立ち寄る鶴見台で調査していると、話かけられることも多いですし、観察マナーなど、声をかけないといけないこともあります。声をかけるべきか否か、悩ましい場面もあるようです。報告を聞きながら意見交換も活発になり、村を訪れる人に、鶴居村とタンチョウを好きになってもらいたいという、調査に参加した皆さんの熱意を感じました。

来訪者からの質問は、やはりタンチョウに関するものが多かったようです。タンチョウ自然専門員の音成さんは「正確な知識を伝えることも大切だが、楽しい会話を成立させることの方が大切」と言っていました。来訪者からの質問を抜粋して、私が冬の給餌場で観光客から質問されたら、どう答えるか考えてみました。



みなくる映像ホールでの意見交換の様子

質問は、村民の皆さんなら誰もが答えを知っている「あの茶色のタンチョウは何？」です。

- ・春に生まれたタンチョウで、まだ1歳になっていない幼鳥です。
- ・大きさは成鳥と同じなのに、まだピーピーと鳴いています。（給餌場ではピーピーが聞こえます）
- ・やることが子供っぽくて可愛いです。（よく落ち葉などをくわえて放り、遊んでいます）
- ・給餌場に飛来する冬期間は、基本、家族で行動しているので近くに父母がいると思います。
- ・つがいによって子どもとの距離感が違います。観察をしてると過保護か放任主義かが分かります。
- ・タンチョウは卵を2個産むので、茶色頭同士が近くにいたら兄弟かもしれません。（近くにもう1羽いない場合は、1羽は死んでしまったということ。実際、幼鳥1羽の3羽家族が多いです。野生の世界は厳しいですね～）

これくらい引き出しがあれば、楽しい会話が成立するでしょうか？ 調査に参加された皆さんと同じように、私たち野鳥の会のレンジャーも鶴居村を訪れる多くの人にタンチョウと鶴居村の魅力を知ってもらいたいという思いで活動を続けています。